

## 足元で一服感も

日本商工会議所が発表した1月の全産業合計の業況DIは、▼14・4と、前月から▼1・1ポイントの悪化。電子部品や産業用機械、自動車関連を中心とした生産や、インバウンドを含めた観光需要は堅調に推移するものの、深刻な人手不足の影響に加え、鉄鋼、農産物などの仕入価格や燃料費の上昇による収益圧迫から、建設業や飲食・宿泊業などサービス業の業況感が悪化した。ただし、「好転」から「不変」への変化も押し下げ要因となったことに留意が必要。中小企業の景況感は、総じて緩やかな回復基調が続いているものの、足元で一服感がみられる。

業種別では、建設業は都市部を中心に再開発、設備投資は堅調なもの人件費の上昇、資材価格の高止まりに加え、住宅建設や一部地域の公共工事が弱含みに推移しているとの声があり悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が主因。製造業は生産・輸出が好調な電子部品や産業用機械、自動車関連が全体を牽引する状況が続き改善。卸売業は、電子部品や自動車など好調な製造業の関連商品の受注が堅調に推移し改善。

小売業は、食料品・日用品などで根強い節約志向が続く中、株高を背景に高付加価値品の販売が持ち直しているとの声があり、ほぼ横ばい。インバウンド需要の拡大や好調な初売り、寒波の影響による冬物商材の需要増を指摘する声も聞かれた。サービス業は悪化。人件費上昇や農産物の仕入価格高騰により採算が悪化した飲食業や宿泊業が全体を押し下げたほか、燃料費上昇による採算悪化を指摘する声も運送業から多く聞かれた。

先行きについては、先行き見通しDIが▼13・6（今月比+0・8ポイント）とほぼ横ばいを見込む。個人消費の持ち直しやインバウンドを含めた観光需要拡大、輸出や設備投資の堅調な推移、補正予算などへの期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響拡大や、原材料費・燃料費・運送費の上昇、コスト増加分の販売価格への転嫁遅れを懸念する声も多く、中小企業の業況感はほぼ横ばいで推移する見通し。

（山形商工会議所など全国422  
会議所、3,872企業を調査）